

折々の記 No 1 5 2 : 新型インフルエンザと危機管理!

(脱稿: H22/3/31)

普天間移設問題は迷走を続け、相も変わらず、着陸機地点が見えず、郵政改革問題はドタバタ劇を演じた。それにしても総理の落ち着きぶり、余裕綽々とも思える態度には勝算有りと思っているのではないかと勘ぐりたくなる。

奇策とも思える段階的移転、分散移転と現行合意案、米軍にとっては現行案がベストであることは自明である。米国も現地住民の合意が前提と釘をさしているが、それは絶望的ではないのか? 現状維持のままという最悪のケースも考えられるか?

自公政権時代に辛うじて落ち着きそうであった事案を、キャンプシュワブ沿岸への移設は不可であると、自分達で煽り炊きつけて、県外は勿論、県内すら二進も三進もいかない状態にしてしまった。先見洞察力の無さを責められても仕方がないだろう。権力で押さえつけるか、餌を与えて黙らせるかの何れしか無いように思える。

(閑話休題)

昨 3 月 30 日 学士会館で実施されたバイオメディカルサイエンス研究会 (バムサ: 注参照) が主催する「感染症対策啓発セミナー」に参加する機会を得た。講演者は、東北大学大学院教授の押谷教授、演題は、「新型インフルエンザ等の感染症への対応の課題」(45 分) であった。他にも数個の講演が予定されていたが、時間の関係もこれあり、また危機管理との観点からも興味深い話が聞けるのではないかと思ひ、これに絞った次第である。

昨年 4 月末にカルフォルニアで豚インフルエンザの人での感染が確認されて以降の、我が国の対応状況と発症・被害状況と、他の先進諸国の発症状況等を比較して、感染症対策の問題点や難しさを、データを駆使して、素人にも解かり易く説明して頂いた。

○ 日本の新型インフル対策

基本的考え方 (説明資料から引用)

- ・患者数の急激で大規模な増加を出来るだけ抑制・緩和し、社会活動の停滞、医療供給への影響を低減
 - ・医療機関の負担を出来る限り減らし、重症患者に対する適切な医療を提供
・患者の発生については、個々の発生例ではなく、患者数の大幅増減の端緒等を
探知し、対策につなげる。
 - ・現時点を準備期間と位置付け、秋・冬の社会的混乱が最小限となるよう体制整備
- ① ワクチンや抗ウイルス薬による対策
 - ② 公衆衛生上の対策 (外出の自粛、学校・職場の閉鎖、集会等の制限)
 - ③ 検疫強化 (スクリーニング、渡航の自粛)
 - ④ 個人防衛

○ 日本での新型インフルエンザ A (H1N1) の被害状況 (説明資料から引用) 2000 万人以上が感染し、死亡者 198 人

(WHO 報告死亡者数は約 1 7, 0 0 0 人)

○ 特色

- ① 他の先進諸国に比して致死率が極めて低い。(人口 10 万人当たり) 0.15 (先進諸国は、0.8 程度)
- ② 年代別の罹患率、重症化率、致死率に顕著な差異

○ 日本での致死率が低かった理由等

- ① 学校閉鎖・学級閉鎖が徹底されていた。

(学校から直接地域へ、或いは家庭を通じて地域への一般的拡大パターンを防止し

得た。)

②感染拡大の為の個人的措置（手洗い、咳エチケット、外出自粛）が徹底された。

日本人の国民性なのか、或いは政府やマスコミによる周知の成果なのか
所謂個人防衛が相当徹底されたので、大流行が抑えられたとも言える。

③ワクチン(タミフルやリレンザ)の供給が間に合った。ピークが来る前に体制が整った。(各種の対策によりピークの時期を後ろにずらし得た。)

○ 対策の難しさ等

①流行初期の被害予測が困難

急激な被害拡大か、緩やかな増加か、その中間的な推移か

②不確定要素が余りにも多い。出来ることには限りあり、想定外の事態ありうる。

③対策を講ずることによる社会的・経済的損失との節調の困難さ

④フレキシブルな対策は必要だが、その判断基準は？

○ 小生の所見

今般の水際対策やその他の対策について、やり過ぎであるとか、騒ぎ過ぎであるとかの批判があるが、果たしてそうだろうか？新型インフルは、正に未知の脅威であり、最悪の場合 Phase 6 のパンデミックに陥る危険性もあり、講ずる対策の効果も予測できないのである。そのような状況であれば、最悪のケースを想定して対策を講ずるべきである。その結果、日本における大流行を阻止し、死亡者も思いのほか少なかったのである。そういう意味において、今次の対策は、概ね成功であったと言うべきであろう。

結果に対して、どうすればよかったのかの反省をし、将来に備えての教訓を導くことは必要ではあるが、為にする批判をしてはならない。

危機管理の第一の要諦は「悲観・最悪の原則」である。最悪の事態を想定して、為し得る限りの準備をすることである。そうすれば惹起する事態はその想定の中に収まる。想定範囲内であれば、事前準備している筈であるから対処も比較的容易である。

注：BMSA (<http://www.npo-bmsa.org/>)